

海峡を越えた連携のスタート

北原 啓司 弘前大学

ずいぶん大きなタイトルで始めてしまった今号の支部トピックスであるが、ある意味で画期的な取り組みがスタートしたと言ってよい。

年に数回実施される支部長連絡会の議論の中で、支部が連携する取り組みの必要性を何度か議論する機会があった。その中で北海道支部長の西山徳明氏と二人で、二つの支部の連携の可能性が高いという話をして、ぜひ2018年度中にスタートしたいという話が持ち上がった。

北海道支部は、折しも函館市をフィールドにシンポジウムやセミナーを連続して開催する企画を実施することになっており、そのどこの機会に東北支部メンバーと一緒に参加するような企画が可能ではないかということで、毎年東北支部で実施する見学企画を函館で実施するという形態で進めていくこととなった。

実際、東北新幹線が函館地域に延伸して以来、東北と南北海道との時間距離は格段に縮まることとなっている。東北の中心である仙台から新幹線はやぶさに乗車して、函館駅に降り立つまでの時間の方が、札幌駅から特急スーパー北斗に乗って函館駅に到着する時間よりも短いという事実がある。それもあって東北の各地域から十数名の会員が参加することとなった。

かくして、実施された日本都市計画学会北海道支部・東北支部特別共同企画は以下の通りである。

○日時：平成31年1月26～27日

○第1部 トークセッション&懇談会 (1/26)

「地域×専門家集団を考える」

場所：café & deli MARUSEN (函館市)

○第2部 インスピレーショントーク&懇談会 (1/27)

「エリアマネジメントを考える」

場所：函館あうん堂ホール (函館市)

初日に開催された第1部では、北原啓司(弘前大学)×田村昌弘氏(オフィス「オリゾンテ」)による「空間を場所に変わるまち育て」、さらに古地順一郎氏(北海道教育大学)×永澤大樹氏(NPOサポートはこだて)による「データを通じて地域を語る -Halifax IndexからHakodate Indexへ」の対談の後、池ノ上真一氏(北海道教育大学)と阿部正隆氏(日本都市計画学会北海道支部FGJP)をモデレーターに函館と札幌の交流、そして東北が入り乱れる議論が繰り広げられることとなった。

主催する日本都市計画学会北海道支部FGPJは、都市計画等のまちづくりに関わる次世代の専門家が、人口減少を背景とした中小都市のあり方、まちづくりの新たな方向性や方法を検討するために集まったチームであり、とくに函館を対象地とし、具体的な地域課題に向き合い、地元関係者の声を聞き、あるいは実践をとおし、最終的には函館版の都市デザインセンターやフューチャーセンターづくりを構想しているタスクフォースである。

翌日は、太田清澄氏(元北海道支部長)による講演「札幌におけるエリアマネジメントの取り組み」、そして、現地ではその閉店が話題になっている「棒二森屋終活応援プロジェクトによる第3の提案」として、石王紀仁氏(はこだて☆ものづくりフォーラム)、中村拓也氏(日本都市計画学会北海道支部FGPJ)のトークが行われ、その後、渡辺良三氏(はこだてTMO理事長)も加わる形で、参加者とともに議論が進められた。

我々東北支部のメンバーも、二日間にわたり、函館のメンバーの熱いエネルギーを肌で感じながら、貴重な交流の時間を過ごすことができた。

このような有意義な機会を東北支部としては継続的に持ちたいと考えており、また、いずれ東北支部の企画に、北海道の学会メンバーをお呼びするような企画にもつなげていけたらと考えている今日この頃である。

